

小学4年生 「いじめをノックアウト」を活用して自己指導能力を高める

京都市立向島秀蓮小中学校 教諭 堀川 絃子

【番組紹介】いじめをノックアウト#1

いじめが起きにくいクラスって？

「いじめをノックアウト」は、小・中学生がいじめについて考え、解決に向けて話し合う姿を番組で紹介している。クラスでも同様の話し合いをすることで、いじめが起きてみんんで解決できるクラスを目指す。

【授業の概要】

番組の視聴を通して、身近にあるいじめの発端となる問題に気づき、クラスとしてよりよい解決方法について話し合い、自己の努力目標について考える。いじめが起これにくいクラスにするために自分にできることを話し合うことを通して、自分たちでいじめを解決しようとする態度を養う。

【実践者による番組分析】

- 友達関係を築くとき、どうやって話しかけたらいいのか、どんな話題で話せばいいのかなど、誰しもが直面する初めて話す友達との間にあると感じてしまう「壁」に焦点を当てている。番組で紹介されている中学生のリアルな姿を通して、壁をつくっているのは自分自身だということに気づくことができる。
- 「いじめが起きにくいクラス」になるために、番組に登場する中学生たちが自分の経験をもとに話し合い、コミュニケーションが大切だということを伝えてくれている。クラス・個人として、いじめが起きにくいクラスになるために番組からの投げかけから、話し合うきっかけが生まれる。
- 登場するのが中学生であり、小学4年生の子たちの中には、問題意識が生まれにくい可能性がある。自分事として捉えられるように、アンケートなどを活用して、実態を調べた上で授業実践する必要がある。

【授業の流れ】4年 特別活動

題材名 いじめが起きにくいクラスになるために
学級活動(2)望ましい人間関係の育成

1. (事前) いじめが起きる原因について考える

- ◆いじめに対するイメージや、いじめが起きる原因について事前アンケートに取り組む。
- ◆番組を視聴する前に「自分たちのクラスのイメージ」について話し合う。



2. 番組視聴 いじめをノックアウト#1

- ◆事前アンケートの結果から、クラスの中にあるいじめに対する不安な気持ちについて紹介した上で、番組を視聴する。

3. いじめが起きにくいクラスにするために、クラスで頑張ることについて考える

- 「いじめが起きにくいクラスにするために4年2組で頑張ることは何だろう？」 ※各自 WS→全体
- ・イライラしないように我慢する
 - ・人のことをよく考えて行動する
 - ◆友達にされたことに対して嫌な気持ちになったり、自分が嫌なことをしてしまったりすることは起これることはないのか。本当に我慢することが解決策になるのだろうか。

4. いじめが起きにくいクラスにするために、自分が頑張りたいことについて考える

- ◆学級で大切にしたいことを確認した上で、自分自身が努力したいことを考える。
- ◆理想論ではなく、実際に具体的に行動に移せるような目標を設定するように促す。
- ◆自分が決めた目標を交流する。

<事後の活動>

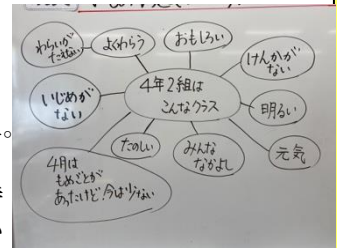
自分たちが設定した目標を実現することができているか、振り返る機会を設けることを伝える。



【授業の工夫点】

事前アンケートの結果と関連付けた番組視聴

本学級で「いじめをノックアウト」を活用した実践は初めてである。そこで、子どもたちの「いじめに対するイメージ」や「いじめがなぜ起こるのか」についてアンケートで調査した。そして、自分たちのクラスのイメージを確かめた上で視聴することで、「いじめが起きるクラス」について意識しながら番組を視聴することができた。自分たちのクラスは「いいクラス」だというイメージを持っている子たちが多く、いじめに対して不安な気持ちを持っている子たちがいることにも焦点を当てることができた。



「いじめをノックアウト」との出会い

番組を視聴後の問いかけとして、番組に登場する中学生の発言を一つずつ取り上げて、「どう感じた？」と教師目線の気づきに重点を置かず、子どもたち自身が視聴して感じた気づきを取り上げるようにした。そうすることで、自分たちの気づきをもとに話し合うことが大切だということに気づかせたいと考えた。

子どもたちの実態と時期に合わせた番組視聴

あらかじめ番組活用の年間計画を立てた上で、子どもたちが抱える問題や学校行事などの関連など、臨機応変に番組を活用できるようにする。

【本実践の成果と課題】

- 友達関係を築く上で、悩んだり不安に感じたりすることは誰にでも起こることだと、番組に登場する中学生たちの姿を通して気づくことができた。
- 番組に登場する中学生たちが、いじめについて真剣に話し合う姿を見て、自分たちもそのように話し合おうとする姿が一部見られた。
- 本実践を通して、クラス・個人としての努力する目標は決まった。しかし、目標がただの理想論とならないように、自分たちが決めた目標を実現できているかどうか、定期的に振り返る機会を設ける必要がある。